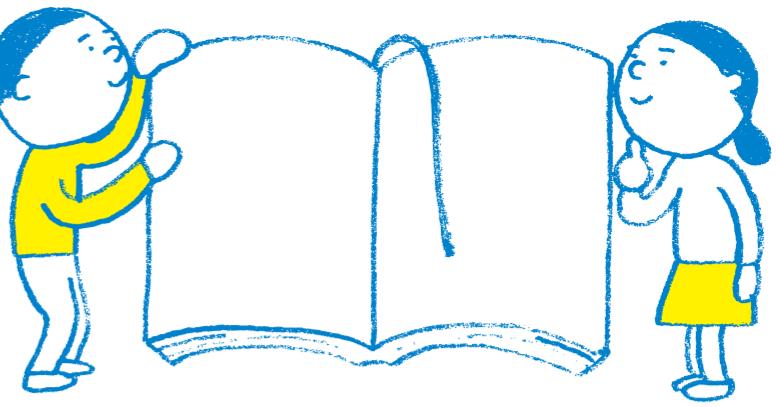


私のおすすめブックコンテスト

～感動を友だちに伝えよう～



明光義塾 推薦図書一覧

この夏、明光義塾と各出版社が協力して、みんなに推薦する本を選びました。



『エルマーのほうけい』

どうぶつ島に捕えられているりゅうの子を助けるため、冒險の旅に出た少年エルマー。そこで起こる様々な事件を、知恵と勇気とユーモアで乗り越えていく。空想の力にあふれた、長く読みつがれている童話の傑作。

ルース・スタイルス・ガネット 作／ルース・クリスマン・ガネット 絵／渡辺茂男 訳 福音館書店



『サンタのおばさん』

世界各地からサンタクロースの代表が集まる国際会議で、アメリカのサンタの後任候補として紹介されたのは、シングルマザーのジェシカだった。「女性サンタ」を認めると、認めないか。会議は大もめにもめる。

東野圭吾 作／杉田比呂美 絵 文藝春秋



『鹿よ おれの兄弟よ』

「おれは鹿の肉を食う。それはおれの血、おれの肉となる。」シベリアの神秘的な森を舞台に、鹿とる氣の自然への敬いと鹿への思いを、力強い詩でつづる。生命のつながりについて深く考えさせられる美しい絵本。

神沢利子 作／G・D・パヴィーシン 絵 福音館書店



『スーオの白い馬』

モンゴルに伝わる楽器、「馬頭琴」の由来にまつわる物語。白い馬と少年の心の交流と別れを、悲しくもみずみずしく描く。横長の画面を生かして雄大な平原を表現し、世界的な評価を受けた名作。

大塚勇三 再話／赤羽末吉 絵 福音館書店



『つむぎがかぞくになった日』

隣のじいちゃんに迷いこんだこねこは、「つむぎ」となづけられた。ぼくは大好きなじいちゃんをとられたようで、やきもちをやいて意地悪をした。台風の日、ぼくのせいで、つむぎがいなくなってしまった……！

なりゆきわかこ 作／小松良佳 絵 ボブラ社



『ねえ、おはなし きかせて』

ゆかが森で一人本を読んでいると、動物が集まってきて言いました。「ねえ、おはなしきかせて」ゆかが本を読んであげると、みんな大喜び。ゆかもうれしくなって……。いっしょにお話を楽しむうれしさが広がる物語です。

原京子 作／高橋和枝 絵 ボブラ社



『のはらのおへや』

ひっこしたばかりのさっこちゃんは、はやくおとなりの女の子に会いたくてたまりません。でも、おとなりはおるです。ひとりで野原をたんけんしていたら、すてきな場所をみつけました！

みやこ あきこ 作 ボブラ社



『はじめてのキャンプ』

大きな子どもたちにまじって、はじめてキャンプの一晚をすごすことになった小さな女の子。その気持ちの高まりや不安、そして勇気などが、ユーモラスに、表情ゆたかに描かれた童話。

林明子 作・絵 福音館書店



『またあえたね』

「きみ、だいじょうぶ？」心配するこぐまをよそに、落ち葉は次々とあたり一面に降りつもる。すると、こぐまもいつしか深い眠りについて……やがて、季節がめぐり、長い眠りから目を覚ましたこぐまを待っていたのは……。

デヴィッド・エズラ・シュタイン 作／さかいぐにゆき 訳 ボブラ社



『レンタルロボット』

「ロボットかします」という店を見つけた健太は、弟ロボットを手に入れた。願いがかなって楽しい毎日だったけれど、おにいちゃんとしてがまんしなければならないことも出てきて、なんかになることも……。第19回小川未明文学賞大賞受賞作品。

滝井幸代 作 学研教育出版

『あきらめないこと、それが冒險だ』

1999年に世界七大陸最高峰の登頂という冒險に成功した野口健さん。その時、エベレストに大量のゴミが捨てられていることを知った。そしてその多くが、日本の登山隊のゴミだった。その経験から、「地球を守る」という野口さんの次の冒險が始まつた。

野口 健 作 学研教育出版

『A (アンペア)』

親友が作ったメーターは「生きてる量をはかる箱」だった。見えないけど確かにあるモノ。僕の中にも「アンペア」はあるんだ。春休みの間の出会いと別れで、少しだけ成長していく少年の物語。著者はお父さんお母さんはきっと知っているゲーツ家。

篠原勝之 作 小学館

『風のダンデライオン 銀河のワールドカップガールズ』

サッカー少女・高遠エリカは、口だけ達者でサッカーの下手な少年と8人チームを結成し、女子トッピングのチームと対戦することを目指す。NHKアニメ『銀河ヘキックオフ!!』原作。

川端裕人 作 集英社

『小公主』

最愛の父の死によって恵まれた生活が一転、下働きとして屋根裏部屋に暮らすことになったセーラ。苦しい時も持ち前の想像力をいっぱいに働かせ、気高く果敢に生きる少女が呼びよせた奇跡とは？ 百年読みつがれた名作古典。

フランス・ホジン・バーネット 作／高橋方子 訳／エセル・フランクリン・ベッカ 絵 福音館書店

『すいかの匂い』

あの夏の記憶だけ、いつまでもおなじあかるさでそこにある。つい今しがたのことみたいに——。困惑、痛み、邪氣。それを知って、私はひとり、「これは秘密」と決めた。11人の少女の、かけがえのない夏の記憶の物語。

江國香織 作 新潮社

『素数ゼミの謎』

17年あるいは13年おきに何億匹も現れる不思議なセミ。17・13という「素数」に隠された謎とは？ いったい「素数ゼミ」って何ものなの？ 子どもから大人まで楽しめる科学読み物。

吉村仁作 文藝春秋

『チームふたり』

東小卓球部のキャプテン大地は、小学校最後の試合で、5年生の純と組むことになり、がっかり。だが、それどころではない「事件」が家でも学校でも起きてしまい……。最後に大地が見つけた、「チームふたり」の形とは？

吉野万理子 作 学研教育出版

『鉄は魔法つかい 命と地球をはぐくむ「鉄」物語』

山に木を植えて海を豊かにするという「森は海の恋人」運動。そのしかけには〈鉄〉が大きな役割を果たしているらしい。〈鉄〉の不思議に迫り、楽しく自然の仕組みがわかる本。

畠山重篤 作 小学館

『彼岸花はきつねのかんざし』

也子(かのこ)の前に現れた子ぎつね。「あたしに化かされたい？」ときかれた也子はとっさに、「せんせん」と答えてしまう。段々とかけがえのない存在になっていく、也子と子ぎつね。だが、あの夏、あの爆弾が落とされて……。

朽木祥作 学研教育出版

『魔女の宅急便』

両親のもとをはなれ、ひとり立ちした魔女の子キキ。キキが新しい町ではじめた仕事とは？ 相棒の黒猫ジジと喜びや悲しみを共にしながら、町の人たちに受け入れられるようになるまでの一年をさわやかに描いた物語。

角野栄子 作／林明子 絵 福音館書店

『風をつかまえた少年 14歳だったぼくはたったひとりで風力発電をつくった』

廃品を利用し、独学で、風力発電をつくりあげたアフリカ・マラウイの14歳の少年。学ぶことの本当の意味を教える感動のノンフィクション！

ウイリアム・カムクンバ 作／ブライアン・ミラー 作／田口俊樹 訳 文藝春秋

『神様のカルテ』

信州にある「24時間365日対応」の病院で働く若き内科医・栗原一止(くりはら一いち)。専門外の分野の診療をするのも、3日眠れないことも日常茶飯事……。美しい自然に抱かれた病院で、個性豊かな登場人物が織りなす、いのちの物語。

夏川草介 作 小学館

『カラフル』

大きな罪を犯して死んだ「ぼく」は、天使のはからいで、自殺した中学生の体に乗り移って生き返る。他人の体を借りて生き直す「ぼく」の目には、最初は冷たく自分本位にうつった周囲の人たちの本当の気持ちが見えてくる。

森絵都 作 文藝春秋

『願かけネコの日』

3つのお願いを、神社で願かけたコースケ。気がつくと、三途の川にいた。へんなネコが現れて、「あんたはもう死んでいるだよ」だって！ ええー、そんなあー。いろいろダメ男なコースケの、起死回生の物語。ぜったい元気が出ること間違いなし！

那須田淳 作／スカイエマ 絵 学研教育出版

『きみの友だち』

足の不自由な恵美ちゃんと病気がちな由香ちゃんは、ある事件がきっかけでクラスの誰とも付き合わなくなつた。優等生にひねた奴。弱虫に八方美人。学校生活を送る、みんなにとっての「友だち」とは？

重松清 作 新潮社

『精霊の守り人』

新ヨゴ皇國の二ノ妃から皇子チャグムを託された女用心棒バルサ。精霊の卵を宿した皇子を陳み刺客を差し向ける父帝や、異界から襲いかかる魔物を前に、バルサは身体を張って戦い続ける。幼いチャグムを守るために。

上橋菜穂子 作 新潮社

『セカンドウインド 1』

中3を前にした春休み、雲見峠で遭遇した疾走するロードバイクの集団。その日から溝口洋の世界はすべて変わった。自転車レースを軸に少年の成長を描く本格青春小説。その第1章、今スタート！

川西蘭 作 小学館

『西の魔女が死んだ』

中学に進んでから学校に足が向かなくなつた少女まいは、「西の魔女」のもとで魔女修行を始める。田舎の自然の中で暮らす彼女の心は次第に癒されていくが……。日々に悩み、魔女になりたいと願った少女の、ひと夏の物語。

梨木香歩 作 新潮社

『星の王子さま』